

歴史散策パンフレット

～柏原地区の史跡を歩く～



醫王寶殿の扁額
(日置市明信寺)



令和4年度ふるさと体験塾の様子

祁答院渋谷氏

祁答院渋谷氏は、関東の桓武平氏の出自で相模国(さがみのくに、現在の神奈川県綾瀬市)の高座郡渋谷六郷を所領とした一族です。渋谷光重の頃、宝治元年(1247)に起きた宝治合戦での活躍で千葉常胤(ちばつねたね)の所領であった高城(たき)・東郷・入来院・祁答院・鶴田を与えられました。光重は長男重直を関東に残し、宝治2年に次男以下を薩摩の各地の所領へと下向させました。祁答院を所領としたのは三男の重保です。重保が下向した当初に拠点としたのは柏原でした。柏原周辺には弘安3年(1280)の銘が彫られた山下の五輪塔や、石塔群などが残されており、祁答院渋谷の菩提寺である大願寺も柏原に創建されています。

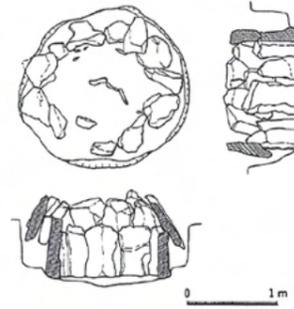
祁答院渋谷氏系図

10代 重慶(しげよし)	6代 公重(きみしげ)	初代 重保(しげやす)
11代 重貴(しげたか)	7代 重茂(しげもち)	2代 重尚(しげなお)
12代 重武(しげたけ)	延重(のぶしげ)	3代 重松(しげまつ)
13代 良重(よししげ)	8代 久重(ひさしげ)	4代 行重(ゆきしげ)
	9代 徳重(とくしげ)	5代 重実(しげざね)

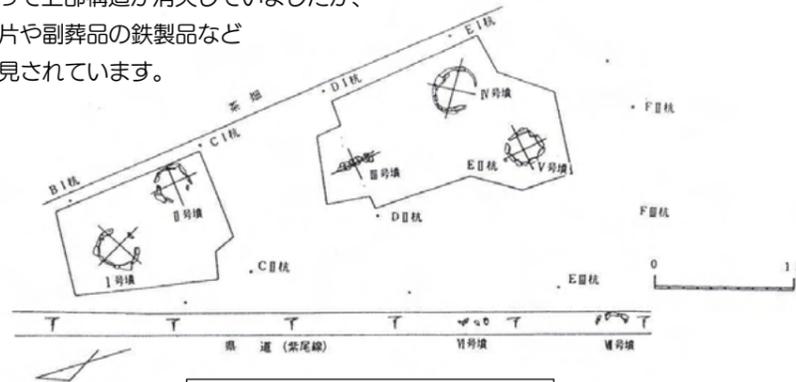
※系図の代数、読み方は諸説あります。

1 小松原古墳

小松原古墳は、昭和48年(1973)2月、県道の工事中に宮之城中学校の生徒によって発見された遺跡です。昭和52年(1977)12月に実施された発掘調査により地下式板石積石棺墓(ちかしきいたいしづみせっかんぼ)が7基確認されました。地下式板石積石棺墓は熊本県天草・芦北地方や出水平野などの八代海沿岸部、熊本県球磨川上流部、川内川流域や宮崎県大淀川上流部で確認されている墓制です。特徴としては地表に竪穴を掘り、底から扁平な石を立てて周囲を囲って遺体を埋葬し上部も平らな石を魚の鱗のように重ねます。小松原で見つかったものは耕作によって上部構造が消失していましたが、人骨片や副葬品の鉄製品などが発見されています。



小松原古墳1号墳の実測図



小松原古墳分布図「鶴田町郷土誌」より

2 ヤケド(焼堂)の坂と北山殿



小松原古墳のある台地から下って夜星川付近にはヤケド(焼堂)という地名が残されています。種子田橋の西側にある坂はヤケドの坂と呼ばれており、種子田橋がかかる前は紫尾への道はヤケドの坂を通る道でした。由来は分かりませんが北山殿とよばれる石祠(せきし)があります。

3 古紫尾神社

この神社の神様は日本神話に出てくる神様です。天照大御神(あまてらすおおみかみ)の孫で天から高千穂の嶺に降りてきた瓊々杵尊(ニニギノミコト)、この神は木花咲耶姫(コノハナサクヤヒメ)という美しい女神と結婚しました。この二柱の神の間に生まれたのが彦火々出尊(ヒコホホデミノミコト)です。別名は山彦尊とも言います。鶴茅葺不敢尊(ウガヤフキアエズノミコト)は彦火々出尊の子供で初代の天皇である神武天皇の父となります。



古紫尾神社境内にあるハートの手水鉢(ちょうずばち)

4 小路下手(しょうじしもて)の田の神さあ



この田の神さあは、国道267号線沿いにありましたが国道の改修に伴い現在地に移動しました。製作年については前面に「寛政二戊二月二十八日」の記銘があります。(寛政2年は1790年)現在も集落の人が輪番で秋の頃にお供えをして祀られているそうです。

5 南方神社

南方神社は江戸時代には諏訪上下社と呼ばれていました。長野県の諏訪大社の夫婦の神様です。元は武神で主人は建御名方神(タケミナカタノカミ)、奥様は八坂留売神(ヤサカノトメノカミ)で主人は諏訪湖を渡って奥様に会いに行っていたそうです。この神社は宝暦2年(1752)の年号がありますので縁結びの神様として祀られたのかもしれないですね。



6 馬頭観音

馬頭観音は、観音としては珍しい忿怒相(ふんぬそう)のもので頭部に馬の飾りがついているものが多いとみられます。牛馬を守護する観音として古くから信仰されていました。農民たちは牛や馬が病気にかからず元気に育てて仕事をしてくれることを祈って馬頭観講を行っていました。



7 柏原地番起点

柏原の地番の起点となった場所にある石碑です。このあたりの家や田んぼなどの地番はこの起点をもとに測量されています。

・ 柏原の地名の由来 ・

柏原小学校周辺の各集落の名称として小路下手や市場などがあり字名などでは政所(まんどころ)や門前などの地名がありますが、これらの地名はかつて祁答院の郡衙(ぐんが、役所)や倉院(そういん、年貢を納める倉庫)などが近くにあった事を示す地名であるとされています。

8 いぼの神様

この石造物はいつの頃からかいぼの神様と呼ばれています。いぼがなくなることを願って祈っていたようですが、石造物の形状からもとは、山下の石塔群と同様な石塔を後世になって加工したものであると考えられます。



いぼの神様

9 山下の石塔群

ここには、五輪塔1基、宝塔（ほうとう）3基、笠塔婆（かさとうば）3基、層塔（そうとう）の残欠などがあります。石塔群は渋谷殿とも呼ばれています。この石塔群の中でグラウンド東側の土手下にある五輪塔には弘安3年（1280）の銘が残されています。この頃には、文永11年（1274）と弘安4年（1281）はモンゴルに起源を持つ元が2度にわたって日本に攻めてきた頃です。この山下の五輪塔は、町内の年号のある石造物では最も古いものになります。



山下の石塔群



山下の五輪塔

10 野母毛神社 (のもげじんじゃ)

柏原小学校裏のグラウンドに鎮座しています。「鶴田再撰方札帳」（つるださいせんかたただしちょう）などでは由緒不明とされていますが、「鶴田村郷土史」では渋谷氏が勧請したとされています。「祈答院記」には「野母毛神社 柏原村に有り。渋谷の勧請と云う。由来不明。女神也九月九日湯田八幡御幸成中途に出向、対面ノ舞アリ。芝サシの祭是ナリ」という記載があります。



● 大願寺について ●

黄龍山大願寺は、「祈答院記」などの記載によると、祈答院渋谷氏の菩提寺として祈答院渋谷氏6代公重が施主となって、康安元年（1361）に創建、貞治3年（1364）に完成しました。「脇寺は十余あり、その景観は素晴らしい」と紹介されています。室町幕府三代将軍足利義満の祈願所であり「諸山（しよざん）という寺格（じかく）を得ました。当時の大願寺には義満手書きの「醫王宝殿」（いおうほうでん）の扁額がありましたが、寺が荒廃した後は薩摩川内市の泰平寺、鹿児島市の南泉院へと移り、現在は日置市日吉町の明信寺で掲げられています。大願寺の墓石塔群は開山堂跡と薬師堂跡と共に昭和62年に県指定文化財に指定されています。

11 興禅寺古石塔群

興禅寺（こうぜんじ）の創建は暦応2年（1339）とされており、祈答院渋谷氏四代行重か五代重実の頃の渋谷氏女が開山した尼寺です。大願寺が康安元年（1361）に創建され、貞治3年（1364）に完成すると、興禅寺は堪真庵（たんしんあん）などと共に大願寺の11の脇寺（わきでら）になりました。現在の石塔群の北側には、寺の礎石と思われる石が埋まっていると伝えられています。



12 鎮守神社

鎮守神社は宝治2年（1248）に渋谷五族が鎌倉から薩摩へやってきた際に各氏族の氏神を祀ったものであり、五体の木座像を御神体として奉じています。これらの御神像は鶴田や東郷などでも祀られています。この他堂内には佐土原島津家の島津家久の娘「イツ」（おいつさま）の位牌「花林長春大姉」も合祀されています。普段は施錠されていて見ることができませんが集落の氏子の祭礼の時に披露されます。



鎮守神社の五体の木座像。一宮伊勢天照大神（東郷氏）・二宮八幡大菩薩（祈答院氏）・三宮加茂大明神（鶴田氏）・四宮春日大明神（入来院氏）・五宮金比羅明神（高城氏）となっており鶴田の五社大明神の神像と共通しています。

13 開山堂跡

大願寺墓石塔群の内、開山堂には祈答院渋谷四代行重（法名行意）五代重実（法名行祖）などの墓塔のほか、大願寺で修行した事のある京都五山の建仁寺や南禅寺、福岡十刹の聖福寺などの大寺院の住職の墓石が並んでいます。



15 鐘つき堂跡

薬師堂跡の上段には鐘つき堂の跡が残されており、礎石が現在も残されています。また、周辺には大願寺関連の遺構としてお手水の墓石塔群などがあります。

14 薬師堂跡

「鶴田再撰方札帳」によると、薬師堂が建立された際には、薬師如来の座像が安置され、「醫王宝殿」の額が掲げられたとあります。現在の墓石群は祈答院渋谷氏7代重茂から13代良重や大願寺僧侶の墓などがあります。



- 1 小松原古墳
- 2 ヤケド(焼堂)の坂
- 3 古紫尾神社
- 4 小路下手の田の神さあ
- 5 南方神社
- 6 馬頭観音
- 7 柏原地番起点
- 8 いぼの神様
- 9 山下の石塔群
- 10 野母毛神社
- 11 興禅寺古石塔群
- 12 鎮守神社
- 13 開山堂跡
- 14 薬師堂跡
- 15 鐘つき堂跡

縮尺 1:15000
100 50 0 100 200 300 400 500 600